



# K U Z U U

例会日 毎週火曜日  
 例会場 足利銀行葛生支店  
 栃木県安蘇郡葛生町  
 中央東 1-12-11  
 ☎0283(86)2181

## ROTARY CLUB NEWS

2002～2003RI 会長テーマ 「手を貸そう」 ジョナサン・B・マジヤバ

葛生 RC 会長テーマ 「勇気を持って行動しよう」 福島 秀治

副会長 関口 泰一郎 幹事 酒庭 和一 副幹事 中田 秀昭

2003～2004 ⑬第 2083 回 15.10.7 例会場 於：足利銀行 葛生支店 PM12:30～

お客様紹介 加藤 実様(葛生町社会福祉協議会会長)  
 須川悦郎君(田沼RC) 影山 寛君(田沼RC)

会長挨拶 ご挨拶申し上げます。  
 朝夕だいぶ気温が下がって参りました。それでもまだ日中日差しがあれば、暖かくて大変過ごし易く、いい季節だと思います。  
 さて、今月は職業奉仕月間並びに、米山月間であります。早速次週には「職業奉仕月間に因んで」ということで田沢委員長を中心としての、クラブフォーラムを開催したく思います。そして米山月間ではありますが、近々、高実子委員長が皆様に温かいメッセージを添えてご案内に上がると思いますので、その節はご理解のうえ昨年同様のご協力をお願いするところでもあります。  
 最後になりますが、今月の23日(金)ですけれども新世代委員会の行事の一環で恒例になりました「秋の自然に親しむ会」が行われます。昨日も田沼小学校にて最終的な打ち合わせがありました。今回は行き先が埼玉県の「むさしの村とさいたま水族館」ということになりました。当日は私と中田委員長で参加してまいります

会員表彰 誕生祝・・・嶋田政君・川田忠司君・坪内馨君・影澤龍平君・椿俊一君  
 結婚祝・・・横塚信也君・小林祥郎君  
 皆出席・・・島野公良君(八年)・関口泰一郎君(三年)

会長報告 特にありません

- 幹事報告
1. 10月プログラムについての承認
  2. 葛生ライオンズクラブ 30周年記念式典  
10月10日(金) 祝金 10,000円の承認
  3. 牧歌舞伎 10月11日(土) 祝金 10,000円の承認
  4. ライラ研修セミナー推薦について  
佐野信用金庫の新井晴美さん
  5. ティー・サーバー購入の件  
緊急なので購入します。金額は後で報告いたします。

<出席状況報告> 野部委員長

\*本日の出席

会員数 48名 出席義務者数 42名 出席者 31名 事前メイクアップ 0名

出席率 73.8%

欠席者 岩崎会員、駒形会員、関口(文)会員、千葉会員、宮田会員、吉澤(浅)会員、齋藤(誠)会員、太田会員、奥澤会員、佐藤会員、馬場会員

\*前回(9月30日)の出席メイクアップ 0名 修正出席率 88.1%

欠席連絡のお願い

やむを得ず欠席となる場合は、足銀葛生支店(86-2181)の高木さんまたは寺内さんまで必ずご連絡ください。

<ニコニコBOX報告> 小林委員長

横塚信也君	誕生祝を頂いて有り難うございます。
吉澤慎太郎君	国際石灰協会の運営委員会のため、イタリアへ行ってまいりました。
川田忠司君	誕生祝を頂いて
坪内馨君	誕生祝を頂いて
影沢龍平君	自分の誕生日などどうでも良い忘れる年になりました。遊ぶ事と例会は忘れないようにしています。記念品をいただきありがとうございます。
小林祥郎君	結婚祝をいただきまして有難うございました。
関口泰一郎君	妻の誕生祝にバラの花をいただき有難うございました。皆出席をいただき光栄です。
島野公良君	皆出席 表彰
新田実君	妻の誕生祝を頂き、有難うございます！
嶋田政君	誕生祝をいただいて
椿俊一君	誕生祝をいただきました。有難うございました。

卓話 <社会奉仕委員会> 影澤委員長

社会奉仕委員会の活動の一環として、地域の皆様に「社協」についての理解を深めていただくため、本日、協議会会長 加藤実氏をお招きいたしました。

- ・テーマ 「葛生町社会福祉協議会の現況について」

安蘇郡社会福祉協議会会長

葛生町社会福祉協議会会長 加藤 実様

みなさん今日は。本日は伝統ある葛生ロータリークラブの10月度第1例会にお招き下さいましてありがとうございます。日頃、皆様には個人としても係わっております会社関係などで、会費等色々な面でご賛助賜りありがとうございます。また、個人的立場で長島徹医師には高齢者福祉、障害者福祉に対するご助言をいただき、川田直治さんは幹事、佐藤勝さんは評議員という立場でお世話になっております。また、葛生高校インターアクトクラブの会員方には、社協のイベント 具体的には先般の秋山学寮における知的障害者の人達との集まり・10/1からの赤い羽根募金などに参加していただき、福島会長の奥様には民生委員という立場で大変お世話になっており、この場をお借りして心より感謝申し上げる次第です。

さて、「福祉」については情勢の変化がありまして、一昨年社会福祉法が変わりました。「地域福祉を充実する」という指針に基づき、国から県へ、県から町へ、町から社協へと権限が降りてきました。H12年の介護保険制度も3年半経過し、広く地域住民の理解が得られました。これに伴い「社協」の仕事も広範になり、国が処置的に行なった福祉の仕事から、住民がサービスを自分で選ぶというような仕組みになっており、「社協」に対する期待が増大して、「社協」の方としても期待に応えべく職員数を増やして体制を整備している現況です。

皆様ご存知のように、H17.2.28 1市2町の合併がありますが、社会福祉協議会においても、行政が一つになったら一ヶ所しか認められないという法律がありますから「社協」の合併も話題になっておりまして、明日(10/8) 佐野市役所 市長室において、佐野市社協会長 飯塚市長・田沼町社協会長 児玉町長・葛生町社協会長 唯一人民間人であり私と事務局の方との合同会議が行なわれ、4つの項目の ①対等か吸収か ②時期 ③拠点の場所 ④名称 で協議します。私共としましても、理事・評議員会に謀りまして葛生町・田沼町の地域の福祉が後退り(あとずさり)しない様、努力したいと思っております。

以上が前口上です

これより、会員の皆様にお配りしました冊子「葛生町社協の概要」を基に本題に入りました。

- ・ 目録の授与 福島会長から  
加藤社会福祉協議会会長へ
- ・ 謝辞 『皆様からの財源は、  
「福祉まつり」の備品の  
購入に当てるつもりです。  
ありがとうございます。』



卓 話 「私の学徒動員」 江田惣平

大東亜戦争も末期に入った昭和19年6月、当時葛生高校の5年生(現高校2年)の我々にも学徒動員が下り軍需工場である日光の古河電気精銅所で働くことになったのです。私達学生は何時召集令状がきても兵隊として役立つようにと軍事教練を教育されて居りまし

たが、軍需工場に行っても軍事教練は教育されました。教官は軍から派遣された 24～5 歳の若い陸軍中尉ですが、校長先生ですら反発ができないほどの権限をもっていたのです。

ある日教練の一端として日光の明智平から尾根づたいに熊笹を分けながら中禅寺湖に下り 15 分の小休止がありましたので友達 5～6 人で華巖の滝を見に行ったのですが、集合時間に 5 分遅れたため教官の怒りをかい連帯責任として 50 数人往復ビンタを食らった事はクラスの皆んなに悪いことをしたと今でも忘れません。

食料事情も悪くなり 8 月の暑い盛りに工場から出た弁当のおかずに入っていたのですがよくみると蛆がわいておりましたので、さすがの私も食べるきがしませんでした。隣にいた工員の人から「食べないんなら俺にくれ」と言われたのであげたところ蛆を丁寧に取り除いてたべてしまいました。その後その工員さんから親しくして貰い仕事の面でも助けてもらった思い出があります。寮生活も 11 月を過ぎると寒さも一段と身に凍みるようになってきましたが、暖をとるにも燃やすものがなく、やむをえず天井板を燃やし、それがなくなると便所の戸までも燃やしてしまいました。工員さんも次々と兵隊にとられ人手不足になり学生も三交代を余儀無くされるようになりましたが、寮から工場まで 3 キロのみちのりを夜中の 12 時の出勤に靴などなく、下駄履きで雪の降る道を歩いて出勤したものです。そんな生活の中でも、今市女学校や日光女学校の女子学生を話題にして興じたのも青春の一駒だったでしょう。

翌年 1 月になって体調をくずし葛生に戻され富国セメント（磐城セメント）の試験室で働くことになり、自宅から通うことができましたので大変助かりました。3 月の卒業式も終わりましたが、そのままセメント会社に就職し終戦を迎えたのです。その間 5 月だったと思いますが、仲間と昼休みを試験室の東の広場で楽しんでいたとき長坂山方面から一機の飛行機が飛んでくるのが見えました。まさか敵機とは思いませんでしたので日本にもまだ飛行機はあるんだなと思って見ていた途端に低空飛行できた艦載機から機銃掃射をうけ慌てて家の中に逃げ込んだのです。幸い怪我人もなく助かりました。またその前にも「あく」との秋山川に焼夷弾が落とされ見に行った若い男子が不発弾で亡くなっております。

さて 8 月に入り原子爆弾を落とされ B29 による無差別攻撃により日本の主要都市は廃墟と化しました。そんな中で何処から耳に入ったのか覚えていませんが今日（15 日）のお昼に大事な放送があることを知ったのです。15 日の 12 時に玉音放送が流され終戦となったのですが本当の終戦は 14 日午後 11 時にポツダム宣言の受諾の電報を連合軍に打ったのが真相のようです。

ここまでのいきさつは、後ほど迫水久常内閣書記官長の「終戦の真相」であきらかにされましたが、私の青春も終戦をむかえたようです。